

## 平成30年度第1回 江の川水系（下流）大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

1. 日 時 : 平成30年5月31日（水）13:30～15:00

2. 場 所 : 江津市役所 別館 江津市職員会館

3. 出 席 者

（協議会構成員）

江津市 : 江津市長

川本町 : 川本町長

美郷町 : 美郷町長

邑南町 : 邑南町長

島根県 : 防災部長（代理 防災危機管理課 主幹）

島根県 : 土木部長（代理 河川課長）

気象庁 : 松江地方気象台長

国土交通省 : 浜田河川国道事務所長

4. 議 事

（1）平成29年度の実施状況（フォローアップ含む）

（2）「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画への対応

（3）平成30年度の実施予定

（4）今後のスケジュール

5. 議事結果

平成29年度の実施状況報告、「水防災意識社会」の再構築に向けた緊急行動計画への対応、平成30年度の実施予定、今後のスケジュールについて協議会に諮り、協議会構成員の賛同をいただいた。

6. 意見交換概要

【江津市長】

樋門の無動力化とはどのようなことか。また、タイムラインの作成について全国の先行事項をもとに行うのではなく、江の川下流独自のものを作り、それから先行事例の参考になる所を取り入れるべきではないのか。

【事務局】

操作員が手動でゲートの巻き上げすることから、フラップゲートにすることで、無動力化にすること。

タイムラインの作成は、江の川独自のもの和其他の事例を参考にした検討を同時に進める。最終的には江の川独自のものを作成する。

**【邑南町長】**

洪水浸水想定区域図の作成範囲を教えてください。

**【事務局】**

江の川を約20ブロックに分けて作成している。また、洪水浸水想定区域図は昨日からインターネット（浸水ナビ）で公開をしており、1kmぐらいまでは拡大できる。

**【邑南町長】**

洪水が起きやすい地域では住民も浸水に慣れているので、住民に浸水ナビ等で浸水箇所を認識してもらい、慣れに対しての意識を変えるために重要なものになる。

**【浜田河川国道事務所長】**

目標年度を延期した取組について、延期した理由を教えてください。

**【事務局】**

例えば、ハザードマップは、県の浸水想定や土砂災害警戒区域・公表後に作成するため。

**【浜田河川国道事務所長】**

県や市町の担当者と緻密に、現実に応じた見直しや取組を志しているが、設定年度は目標であり、それまでには見直しや取組を完了させ、今はその準備を行っているという事でよいか。

**【事務局】**

そのとおりである

**【島根県河川課】**

市町からは、簡易水位計とカメラを整備してほしいという意見がある。必要性等を整理し設置する予定である。

**【島根県河川課】**

NHKデータ放送の画面の構成は広島の方が分かりやすいと思う。放送局で作り方が違うのか。また、カメラ等のデータを提供すると良いのではないか。

**【邑南町】**

台風を想定してタイムラインが作られているが、集中豪雨が何時間前に来るかを早く知りたい。気象庁の高性能レーダーで15時間前からの予報ができると新聞にでていたので詳しく聞きたい。

**【松江地方气象台】**

新聞記事はスーパーコンピューター運用開始の記者発表を参考に書かれたもの。15時間予測の詳細はもう少し後で公表される予定。タイムラインを台風としているのは、あらかじめ時々刻々を追って想定し易い時間の流れとなっており、関係機関がどのタイミングでどう動くかが明確に整理できる。予測が難しい末期の集中豪雨などでタイムラインを作成すると、煩雑となり物事が整理しにくい。

- ・浜田河川国道事務所長：防災教育は推進していくべき。
- ・邑南町長：防災教育推進は必要だが、教育委員会も学校も対応できていない。国や県から直接、指導してほしい。